

## 本の紹介

宇井忠英著「現場で熱を感じ探る火山のしくみ」  
ベレ出版, 302p, 2023年9月25日発行  
2,200円(税別), ISBN978-4-86064-736-0

世界有数の火山国である日本において、火山に関する一般書は数多く出版されているが、本書は其中でも異色の新しいタイプの「火山の教科書」である。地学教育に関わる方々には、ぜひ手にとって読んでもらいたい内容である。

著者は火山地質学や火山防災についての研究・啓発活動に長年携わってきた日本屈指の火山学者である。近年の地球科学研究の多くが実験室での分析やモデル計算を主な手法として進められる中で、著者はそれらの新しい研究手法と同様に現地での観察や観測の必要性を説き実践してきた。「百聞は一見にしかず」という言葉があるように、目の前にある火山という自然事象を学ぶとき、そこにある地形や露頭から教えられることはどんな知識やデータよりも考察を深めてくれる。まさに本書のタイトルにもなっている「現場で感じる」ことを大切にしている研究者なのだ。

多くの一般向け書籍は、火山に関する様々な現象を一般化し、誰でもわかる平易な表現で解説しているものが多い。色使いのきれいなイラストや、美しい火山の写真などがふんだんに使用されている本を手にしたことのある方も多いだろう。読者の火山への興味・関心を高める普及書としては良いのだが、実際の火山地形や火山噴出物の露頭を前に、そこから何かを読み取ろうとしたときに役立つ参考書はなかなか存在しない。

一方で本書は、著者が長年にわたる火山調査の現場で撮影し続けてきた火山地形や露頭、火山噴出物の写真を中心に掲載し、それらを用いて火山噴火に関する事象についてわかり易く解説している。お世辞にも目を引くイラストなどは入っていないが、火山好きの筆者としてはどれもワクワクする貴重な写真資料である。実は本書を紹介する私自身も著者から火山の現場で多くのことを教えていただいたことがあり、本書を読むと著者と一緒にフィールドにいる錯覚に陥る。

さて、本書では現在の学校教育で使用している教科書の記述内容に関する問題点にも触れている。例えば「小・中学校理科では、火山の形や噴火のしかたの多様性は“マグマのねばりけの違い”によると教えており、その違いに対応する岩石名として玄武岩・安山岩・流紋岩の3種類を対応させているが、それでは誤った自然感を植え付けかねない。」と現行の教育内容の危険性を指摘している。

また、休火山・死火山などの現在は使われない用語や、コニーデ・トロイデ・アスピーデなどの不適切な用語が観光地等で未だ使用されていることの問題点なども指摘している。さらには火山防災対策の具体的な取り組みを紹介する一方で、その限界や注意点などについても触れている。

一般社会における火山についての解説だけでなく、高校地学や地学基礎においても、火山についての解説の一部は一昔前か、さらに前の古い内容の場合がある。地学教育に携わる者にとって、知識のアップデートを図ることのできる手頃な参考書になり得るだろう。

最後に、誤解のないよう追記する。ここまで本書を新しいタイプの「火山の教科書」として紹介してきた。しかし、本書は教科書というよりも「伝道書」の方が適切な表現かもしれない。著者が読者に求めているのは、本書を読んで火山についての正しい知識を身につけることよりも、タイトルにあるように「現場で熱を感じ探る」ことだろう。読者が本書を手手に火山のフィールドに出かけ、「現場」で地形や露頭、火山噴出物を観察しながら、そこに残された火山の「熱」を感じ、そこで何が起きたのか「探る」ことを望んでいるのだろう。

私自身が本書を通して、著者からフィールドワークに行き現場をよく観察するよう叱咤激励されているように感じた。そういった意味では本書からは筆者の火山に対する「熱」が伝わってくる。

(北翔大学 横山 光)

2023.12.30 受付

2024.2.8 学会ニュースレター公開

2024.2.8 学会ホームページ公開